

新年は歴史の変わり目か

理事長 富澤 暉

2年程前に、私は米国に潜在する幾つかの軍事戦略案を勉強していた。その中の一つに「オフショア・バランスング」というものがあった。それは、①米国経済発展のため、米国は中国との軍事対立を避け良好な関係を保つ②しかし、中国軍事力が米国以上のものになるのも困る③このため、中国に対しては、北のロシア、西のインド、東の日本から、軍事的に牽制させる④そのため日本にも核兵器を持たせる⑤オフ・ショア（沖合）に退いてはいるが所要に応じて戦力投射できる準備はしておく、というものであった。

この戦略案を提言しているのはミアシャイマー、ウオルト、レイン等の国際政治学者「ネオリアリスト」達だという。「米国にこの戦略をとられては大変だ」と思いつつ、私は拙著『逆説の軍事論』（27年6月発刊）の中に「揺れ動くアメリカの軍事戦略」という小見出しをつけて紹介した。

それから数カ月を経て、トランプという米大統領候補が、彼らと同様のことを言っていることを知った。そして昨年夏に出した本（田原総一郎との対

談集「矛盾だらけの日本の安全保障」の最後にそのことに触れ「そうならぬことを望むが、なった場合の対応を本気に考えなければならぬ」と書いた。

新しい年を迎えて、このネオリアリスト達が米国・新大統領のスタッフに、どういう影響を与えるのかを見守って行きたい。

約百年前、第一次大戦の後始末をリードした米国のウッドロー・ウィルソン大統領は20世紀の国際協調のために国際連盟設立に努力した。しかしそのウイルソンのお膝元の米国上院が急遽、国際連盟加入を拒否し、更に百年前のモンロー主義を米国に呼び戻し「アメリカファースト」に舵をきった。その後の経済不況もあり、世界はブロック化へ進み、それが悲惨な第二次大戦をもたらした。

戦後70年の世界は、国際協調（グローバル化）という不可逆な流れの中にあると考えられてきたが、実は今、百年周期の「世界分裂」という、より大きいうねりを迎えたのかもしれない。

この状況の中から如何に新しい国際協調を生み出すのか、それとも本当にまたブロック化の時代が来るのならばどのブロックに属して生きのびていくのか、を国民一人一人が真剣に考えるべき新年を迎えた。